



“ジュネーブから今を見る” 今日のヘッドライン

アジア

2015年4月24日

台湾株式市場が面白い

台湾の証券取引所がシンガポールと、また構想の段階とはいえ中国とも相互接続される可能性が出てきました。シンガポールとの相互接続の詳細が固まるのはこれからですが、台湾株式市場の将来にプラスの材料と見られます。

台湾証券取引所：シンガポール証券取引所 接続の開始の計画を公表

①台湾とシンガポール市場の接続

シンガポール取引所(SGX)のマグナス・ポッカー最高経営責任者(CEO)は2015年4月22日、台湾証券交易所(TWSE)と交渉を進めている相互接続について、2016年前半にも開始するとの見解を示しました。台湾とシンガポールのそれぞれの証券取引所(証取)運営会社は2014年9月に証取接続を検討する取り決めを結びました。台湾証取の林火灯社長が2014年12月に話したところでは、シンガポールとの証取接続では台湾の主要株式150銘柄程度に投資できるとの見込みと述べています。

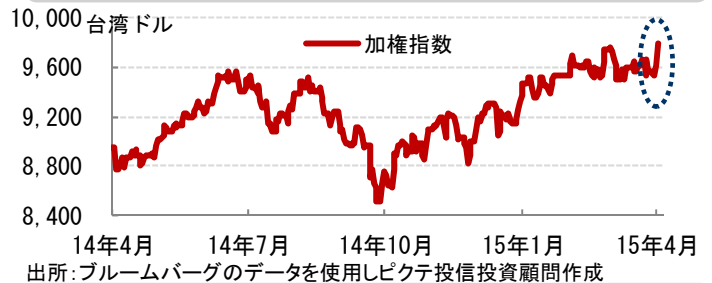
②台湾と中国本土市場の接続

台湾紙の経済日報が4月22日、中国の証券監督当局が上海、台北両市場の株取引の接続について検討していると報道したことを受け、翌23日の台湾株式相場は主要株価指標の加権指数が前日比1.9%高となりました(図表1参照)。中国資本市場へのアクセスが拡大されるとの観測から主に金融株(同セクターは+4.7%)が上昇しました。

2つ目の中国との接続は仮に実現したら大きなインパクトが期待されます。中国は台湾を(恐らく政治的な理由で)アジアインフラ投資銀行の創設メンバーに認めないなど関係はギクシャクした面はあります。しかし中国当局は台湾との相互接続に加えて、他にも経済関係の強化を模索しています。例えば、中国は、人民元適格外国機関投資家(RQFII)制度を緩和して、台湾の投資家による本土資本市場へのアクセスの拡大を検討している模様です(現在、台湾の投資家の本土市場へのアクセスは適格外国機関投資家(QFII)制度などに限定)。インフラ投資拡大が見込まれるアジア市場に資本市場の整備は欠かせませんが、台湾と中国の関係には期待を含め注目しています。

図表1: 台湾加権指数の推移

(日次、期間: 2014年4月23日～2015年4月23日)



どこに注目すべきか:

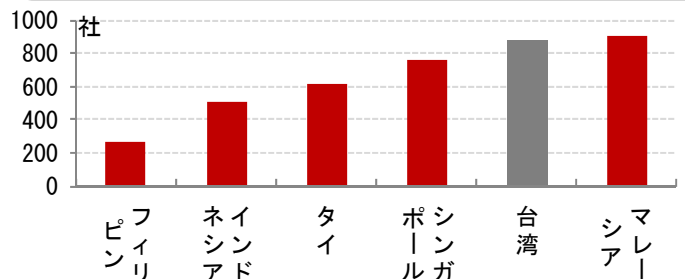
台湾シンガポール相互接続、RQFII

台湾の証券取引所がシンガポールと、また構想の段階とはいえ中国とも相互接続される可能性が出てきました。シンガポールとの相互接続の詳細が固まるのはこれからですが、台湾株式市場の将来にプラスの材料と見られます。

1つ目の注目は台湾が成長著しいアジア市場において資本市場統合に参加する足がかりとなることが期待されることです。東南アジアでは、東南アジア諸国連合(ASEAN)を中心にアセアン・トレーディング・リンクをプラットフォームとした(ASEAN間での)取引所同士の提携関係が進捗しています。ASEANのメンバーでない台湾は800社超が上場(図表2参照)するなど規模的には十分なだけに、シンガポールとの相互接続で新たな投資家を迎えることが期待されます。

図表2: アジアの主な証券取引所の上場企業数

(時点: 2015年3月現在、上場企業は国内、海外企業の合計)



※台湾以外の国々はASEAN加盟国

出所: 世界取引所連合(WFE)のデータを使用しピクテ投信投資顧問作成



ピクテ投信投資顧問株式会社

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。